思い出がいっぱい

◆一人目の子供は、祖父母に五月人形を買ってもらいました。今、お腹の中にいる二人目の子供は、なんとかひな人形を買ってもらえるように、女の子を望んでいます。（西岡）

◆おひな様を出すのは、心のやさしい気持ちのときです。子供たちの保育所のころの、手作りのおひな様も並びます。三人娘ですので、そちらのほうも結構にぎやかで、段飾りのおひな様より思い出深いものがあります。（柳瀬麻智）

◆三月三日はなぜ休日じゃないの？二つもおめでたい（？）日なのに。ひな祭りとみみの日。（橋本加奈子）

◆小さいときは毎年出していたけれど、今は片付けたままで……。見ているだけで心安まりますね。（長内直美）

◆保育所に通う娘が、今年もかわいいおひな様を作ってきました。去年のと並べて飾ってありますが、一年でこんなに成長したんだなあと驚いています。（野口修孝）

南国画廊

みんな君に

葛目 義人（岡豊町）

「民踊なんこく」会員募集

各地に伝わる民踊を楽しく踊ってみませんか。

◪とき　第2・第4火曜日 13:30～15:30

◪ところ　中央公民館内柔剣道室

◪講師　野島昌子 氏

※お問い合わせは村山千津（☎㊗0806）まで

美しいまちづくり推進事業

県補助事業の快適居住環境創生事業の一つとして、生活排水処理施設整備事業の中で「美しいまちづくり推進事業」が実施されます。下記にお問い合わせのうえ、要望される集落は期日までに必要な書類を提出してください。

◪提出期限　5月31日㈮

※お問い合わせは生活環境課（☎市役所内線341）まで

●同和問題Q&A

～疑問に答えて～ ①

▼差別、差別と言うけれど、差別はもうないのではないか？（その一）

「もう部落差別なんてないのでは」という言葉は、よく耳にします。

この人たちの多くは「言葉や態度で部落の人を傷つけ、さげすむことだけが部落差別だ」と考えているのではないでしょうか。

また「わたしは、部落の人に知人があって、よくその人のところへ行って食事をしたり、酒をのんだりして中まくやっているので、部落差別なんて、もうないとおもいますが」という人もいます。しかし、人と人との交際で、ある程度親しくなれば、このようなことは、あたりまえのことです。このごくあたりまえのことが、部落問題になると「差別をしていない」証明として取りあげられます。

このように「いっしょに食事をしたり酒をのんだりしている」ことを、ことさらに取りあげていうのは、部落の人を本当の友人（仲間）とは考えず、一段下の者との意識がひそんでいるから、このような言葉がでてくるもので、この意識そのものが差別なのです。わたしたちは「自分の心の中に潜在している差別意識に気づいていない自分の姿」を発見することが学習の原点になるのです。

また、部落問題について学習した人たちの中にも、それほど深刻な問題だと考えていない人が多いのではないでしょうか？

私たちの住んでいる高知県でも、毎年五十～六十件ぐらいの差別事件（事象）が県教育委員会に報告されています。この中の半分くらいは、誰がしたかわからない差別落書きや電話です。県外の観光客がたくさん立ち寄る高知城周辺のトイレなどに、悪質な差別落書きを連続して行っていた犯人は、検挙されましたが、それ以後にも起こっています。

南国市でも、差別落書きや差別事件が何回も起こっています。

今年の1月下旬にも市北部の国道下のトンネル内で差別落書きが発見されました。学校教育の現場でも差別事件が起きております。その背景を調査すると、家族や地域の人たちの差別言動に影響されていることがわかりました。

このように、差別はまだまだ私たちの周辺に、たくさん残っています。

同和教育シリーズ